# 市民公開講座

## 脳梗塞はこわくない ～ 診断と治療

神経内科　榊原 隆次 先生　　放射線科　寺田 一志 先生

去る2012年7月28日、脳梗塞をテーマにした市民公開講座が開催されました。ロンドンオリンピックが始まってまもない盛夏の中、245名もの参加を頂き、会場は追加の椅子が必要になるほどの盛況ぶりでした。

最近では、脳梗塞がテレビでも取り上げられていますが、「半身が重い」「しびれる」「口が重くなった」など症状は様々で、その原因は生活習慣病という全身の病態が大きく関わってきます。今回の市民公開講座では、佐倉病院の脳梗塞医療チームすなわち神経内科、脳神経外科、放射線科、薬剤師、理学療法士、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーが集結し、佐倉病院で行われている脳梗塞のトータルなケアについて、それぞれの専門的な立場からの講義が行われました。

担当者と講義テーマは次の通りです。1. 神経内科医師・露崎洋平：「脳梗塞と生活習慣病、脳梗塞の治り方」、2. ソーシャルワーカー・高橋智美：「医療連携や介護保険、地域サービスについて」、3. 放射線科教授・寺田一志：「脳卒中と画像検査について」、4. 神経内科医師・舘野冬樹：「脳梗塞の内科治療について」、5. 薬剤師・土井啓員：「脳梗塞治療薬の服薬管理について」、6. 脳神経外科医師・羽賀大輔：「脳梗塞の外科治療について」、7. 臨床心理士・尾形剛：「脳梗塞と患者さんの心理について」、8. リハビリテーション部・小川明宏：「理学療法士、作業療法士、言語療法士の役割について」と、大変盛りだくさんでした。最後の質問コーナーでは、会場から多数のご質問・ご意見を頂き、参加された皆様には大いに参考になったものと思われます。

公開講座で目指すことは、病気に対する知識を増す以外に、佐倉病院とその医療を知り、了解と親しみを持って頂く事で、受診しやすい環境、早期発見の増加・予防につなげることです。今回のテーマである脳梗塞の場合は、特にまえぶれ脳梗塞である一過性脳虚血発作（TIA）の時期に、すぐに当院を受診して頂き、一刻も早く適切な治療が始められると良いと思います。さらに、公開講座はチームとして皆様と接することが出来ますので、我々のチーム力向上にも大いに役立っています。

当日のスライドとアンケートの集計結果は、佐倉病院神経内科のホームページから見ることができますので、ぜひご覧ください。次回の神経チームの市民講座は「認知症」について11月24日に予定されております。これもまた、興味深いテーマで、大きな社会問題となっておりますので、皆様と一緒に考えて参りたいと思います。

## ■市民公開講座スケジュール■　〈2012年の市民公開講座　予定〉

入場無料
申込不要
200席

| 開催予定日 | 講演予定テーマ | 担　当 |
|---|---|---|
| 10／27(土) | 「漢方治療でできること」内科診療における漢方治療の有効例／女性の健康と漢方／養生と漢方 | 漢方科・内科・皮膚科<br>露仙堂クリニック／あきば伝統医学クリニック |
| 11／24(土) | 「ものわすれ」（認知症）と共に歩む“診断と治療” | 神経内科・神経放射線・メンタルヘルス・脳神経外科・薬剤部・リハビリテーション部・看護部・ソーシャルワーカー |
| 12／22(土) | 「冬に怖いウイルス感染」 | 感染対策室ほか |
| 1／26(土) | 「消化器病の新しい診断と治療」 | 消化器内科ほか |

8月を除き毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。いずれの講座も 14 時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。




# 東邦大学 佐倉だより

Vol. 18　2012,10,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL　043-462-8811㈹
FAX　043-462-8820㈹
URL　http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp


**基本理念**

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院

病診（病）連携
地域に貢献する病院

教職員のあり方
人間愛を共有する病院

職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院

生涯教育
良き医療人を育成する病院

**患者の権利**

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

## 副院長の抱負

副院長
鈴木　康夫


**Topics News**
副院長の抱負／副院長　鈴木 康夫
新任医師の紹介　■耳鼻咽喉科／太田 康　■麻酔科／北村 享之
医療連携だより
「第１回東邦大学医療センター佐倉病院　地域医療連携パス症例検討・懇談会」開催
「紹介患者事前予約制」の導入のご案内
市民公開講座
■脳梗塞はこわくない ～ 診断と治療


加藤新院長の元、新執行部の一員・副院長として佐倉病院運営責任の一翼を担うことになりました内科の鈴木です。私の職務は主に佐倉病院の臨床・管理全般を統括することにあり、佐倉病院が地域住民から今まで以上に安心と信頼の寄せられる病院であり続けること、大学病院として高度先進医療を提供し続ける病院であること、の実現・維持に向け円滑に病院の運営がなされるよう全力で職務を全うする所存であります。微力ではありますが、佐倉病院が近隣住民および医療機関の皆様方から最高の医療機関と言われる病院であること目標に努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

佐倉病院は創立以来数多くの諸先輩方のご努力と共に、近隣医師会の諸先生方の絶大なるご支援の賜物により、年ごとに外来患者数および入院患者数の増加し続けることでも表れているように近隣住民から大きな信頼を頂く印旛地域の中核病院の一つへと発展してきました。今日までの発展を礎に、本年度から発足した新執行部によって、佐倉病院はさらなる大きな飛躍を目指す新たな段階を迎えようとしています。その最大の目標が、佐倉病院の長年の夢であった放射線治療の開始へ向け秒読み段階に入ろうとしています。がん治療拠点病院として必須である放射線治療が開始されれば、佐倉病院は印旛医療圏の患者様と医師会の先生方に対して一層の高度医療を提供することが可能になるものと確信しております。放射線治療の開始に合わせ、佐倉病院全体がより一層診療の効率的運用化へ向けた可能性を探り職員一丸となって知恵を振り絞る所存であります。

佐倉病院が発展し続けるためには、病院運営の要である人材育成が欠かせません。次世代の医療を担う優秀な若手医師を育て上げることは、大学病院に課された重要な責務の一つであることは明白であります。優秀な医師の育成には優れた診療環境の整備と共にアカデミズムの根幹である研究体制の整備も欠かせません。現在、優れた人材登用と共に一層の優れた研究体制の整備に向け各診療部門が一致協力して議論を積み重ねております。研究の成果は多くの患者様と近隣の先生方にも大いに役立つよう、佐倉病院発のオリジナリテイーの高い診療に役立つ臨床研究になるものと期待されます。優秀な医療人を数多く輩出できる大学病院をめざし、全科が一致団結邁進できる体制づくりの一翼を担えれば幸いであります。

医療人としてあるべき私自身の座右の銘は“志は高く、目線は低く”であります。患者さんの目線に合わせた医療の実践と医学への高い志を絶えず忘れずに日々精進してまいる所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 新任医師の紹介

## 耳鼻咽喉科

准教授
太田　康

2012 年 9 月 1 日付けで、東邦大学医療センター佐倉病院准教授として赴任いたしました。私は 1987 年に福島県立医科大学を卒業後、東京大学耳鼻咽喉科に入局後、いくつかの病院で耳鼻咽喉科の臨床に携わってきました。1999 年からは自治医科大学、2002 年からは自治医科大学さいたま医療センター、2009 年から日本赤十字社医療センターで勤務をしていました。どの病院においても鼻・副鼻腔疾患、耳疾患をはじめ、頭頸部腫瘍疾患まで幅広く臨床に携わってきました。

特に鼻・副鼻腔疾患においては、一般の鼻内視鏡手術をはじめ、難治性前頭洞炎に対する DRAF などの内視鏡下の前頭洞MEDIAN DRAINAGE手術、流涙などに対する鼻内視鏡下涙嚢鼻腔吻合術（DCR）、アレルギー性鼻炎に対する鼻内視鏡下後鼻神経切断術（PNN）などの最先端の技術を取り入れています。また患者さんの負担をなるべく軽減させるため、鼻内視鏡手術後のノーパッキング化にも力をいれています。

難治性副鼻腔炎である好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性副鼻腔炎に対しては鼻ステロイドスプレー治療、抗ロイコトリエン薬、抗アレルギー薬、短期的なステロイド薬投与などの保存的治療と換気ルートを重視した鼻内視鏡手術を組み合わた治療方法を行い、効果をあげています。同時にこれら難治性副鼻腔炎の病態の解明、新たな治療法の開発に取り組んでいます。

今後は東邦大学医療センター佐倉病院耳鼻咽喉科で、今までの経験を生かしていければ、と思っています。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

## 麻酔科

臨床教授
北村 享之

平成 24 年 8 月 1 日付けで、東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンターから東邦大学医療センター佐倉病院麻酔科に臨床教授として赴任いたしました北村と申します。私は、平成 8 年に東京大学を卒業後、東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンターにおいて臨床・研究・教育に従事してまいりました。

大学病院において、臨床・研究・教育は三位一体であります。より良い医療の実現を目標とする研究が展開されている現場は、若い医師や医学生に対する教育において最良の環境となります。近年、麻酔科学領域において注目を集めている話題の一つに、手術麻酔管理が手術の長期予後に及ぼす影響が挙げられます。一般に手術麻酔の基本要素とされている“鎮痛、鎮静、不動化”を提供するだけにとどまらず、手術麻酔管理中に循環、呼吸、免疫、代謝などの生理機構に対して積極的に介入していくことが、よりよい術後経過につながると考えられています。私はこれまでに、全身麻酔薬が代謝に及ぼす影響に焦点をあてて基礎研究を進めてまいりました。今後は、これまでの基礎研究で得られた知見をもとにして、周術期代謝管理の最適化をテーマとする臨床研究を展開し、手術麻酔管理の質の向上に貢献していきたいと考えています。スタッフともども、臨床・研究・教育に励んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 北村 享之 先生のご紹介

麻酔科教授　田上　惠

灘高から東大理Ⅲという経歴から、皆さんは優男と想像されたのではないかと思いますが、写真で見た通りの熊男で、大変気さく、温厚な人柄です。また、北村先生といえば天皇陛下の麻酔を担当されたことでも有名で、今回の赴任は『臨床教授』ということであり、臨床一点張りという印象をもたれる方もいらっしゃるかと思いますが、実は東京大学麻酔学教室の基礎研究部門を支える第一人者でもありました。本人も書いておりますが、今後、当麻酔科は基礎研究を東京大学（近い将来には佐倉病院でも）で、臨床研究を佐倉病院で行い、その両者の総括も北村先生に担当して頂きます。当院の発展のみならず、地域医療の担い手としても十二分に力を発揮してくれるものと信じております。

# 医療連携だより

## 「第１回東邦大学医療センター佐倉病院 地域医療連携パス症例検討・懇談会」開催

去る９月４日、当院において「第１回東邦大学医療センター佐倉病院　地域医療連携パス症例検討･懇談会」が開催され、主な連携先病院である新八千代病院・八千代リハビリテーション病院・佐倉厚生園のスタッフと当院スタッフの、合計 62 名の方にご出席頂きました。近隣の医療機関と脳卒中地域医療連携パスの運用を開始してから 3 年、大腿骨頚部骨折地域医療連携パスの運用を開始してから 1 年 3ヶ月が経ちましたが、当院主催でこのような会を行なったのは初めてであり、顔の見える連携を持つ上で非常に実りのある会となりました。

症例検討会では、実際に地域医療連携パスを利用して連携医療機関に転院された 3 名の患者さんの、当院での治療、そして転院後の経過について当院の医師側からと連携先病院の側からそれぞれ発表を頂く形式で行われました。1 例目の脳神経外科の患者さんについては、脳神経外科教授の長尾建樹先生、八千代リハビリテーション病院院長の大森啓造先生から、2 例目の神経内科の患者さんについては神経内科の露崎洋平先生、佐倉厚生園 ST の佐藤光様から、3 例目の整形外科の患者さんについては、整形外科助教の柴田孝史先生、新八千代病院 MSW の佐藤真澄様から発表を頂きました。特に、連携病院からの発表については、異なる職種からそれぞれの視点が生かされた発表であったのが印象的でした。質疑応答では、いずれの症例についても職種を超えて、活発に意見交換がなされました。

症例検討会終了後、職員食堂で開催された懇談会では、佐倉厚生園園長で印旛市郡医師会会長の遠山正博様に乾杯のご発声を頂いた後、軽食を交えながらリラックスした雰囲気でご歓談を頂きました。第 1 回目の開催ということで、運営の至らない点もありましたが、院内外のスタッフが積極的に参加して下さったこともあり、大変充実した会となりました。今後とも、当院との医療連携へのご協力につきまして何卒ご協力をお願い申し上げます。

## 「紹介患者事前予約制」の導入のご案内

このたび当院では、外科・消化器外科・脳神経外科・産婦人科（一般外来・内視鏡）の「紹介患者事前診療予約制」を導入することといたしました。既に導入済みの診療科と併せましてご利用いただけますようご案内申し上げます。

※なお、従前通り、一般外来につきましては事前予約の無い場合も受診が可能です。

**【予約手順】**

**①紹介元医療機関から予約のお電話をお願いします**

・患者さんのカナ指名･生年月日･電話番号をお伺いします

・患者さんの受診希望日などございましたら可能な範囲で調整します

**②当院より予約確認書（患者控･紹介元医療機関控）をFAXします**

※原則、予約の電話を頂戴してから 20 分以内

**③患者さんに、当院からお送りした予約確認書（患者控）と、紹介状などの書類をお渡し下さい**

**【受付時間】**

平　日 8：30 ～ 16：30 ／土曜日 8：30 ～ 13：00

※休診日を除く

**【連絡先】**

医療連携室（事前予約専用）　**043-462-8875**

### 紹介患者事前予約可能な診療科

| 診療科 | 一般・専門外来 | 詳　細 |
|---|---|---|
| 呼吸器内科 | 一般外来 | 月曜～金曜 …… 8:30 ～ 9:00　土曜 …… 8:30 ～ 9:30 |
| 神経内科 | 一般外来 | 月曜 …… 13:00 ～14:30　火曜～木曜 …… 10:00 ～ 11:30 |
| | ものわすれ外来 | 金曜 …… 13:00 ～15:00 |
| 循環器センター | 一般外来 | 月曜～金曜 …… 9:00 ～10:00 |
| 糖尿病内分泌代謝センター | 内分泌性疾患外来（ホルモン外来） | 木曜 …… 13:00 ～15:00<br>難治性高血圧・二次性高血圧・甲状腺疾患・副腎疾患・性腺疾患・骨 Ca 代謝疾患・視床下部下垂体疾患などのホルモン異常が疑われる患者　糖尿病・脂質異常症などの糖尿病性疾患のご紹介については、従来通り紹介状とともに平日 11 時までにご受診いただけるようご案内下さい。 |
| | 高度肥満症治療外来 | 木曜 …… 14:00 ～16:00<br>BMI 135 以上あるいは 132 以上で糖尿病などの合併症を有する高度肥満患者（とくに減量手術を希望されるような方）<br>可能な限りキーパーソンとなるご家族の同伴をお願いいたします。 |
| 消化器内科 | 一般外来 | 月曜～金曜 …… 9:00 ～ 10:00 |
| 泌尿器科 | 一般外来 | 月・水・土曜 …… 10:00 ～ 11:00　金曜 …… 9:30 ～ 11:00 |
| 整形外科 | 一般外来 | 月･水･木･金曜…… 8:30 ～ 9:00 |
| | 医師指定 | 中川教授 月曜 …… 13:00 ～ 14:00 |
| | | 青木講師 木曜 …… 14:00 ～ 15:00 |
| | | 中島講師 水曜 …… 14:00 ～ 15:00（第 1･3 のみ） |
| 形成外科 | 一般外来 | 木曜 …… 13:00 ～ 15:00（第 4 以外） |
| 皮膚科 | 一般外来 | 月・木・土曜 …… 9:00 ～ 9:30 |
| 産婦人科 | 一般外来 | 火曜・金曜 …… 11:00 ～ 12:00 |
| | 周産期専門外来 | 火曜 …… 14:00 ～ 17:00　木曜 …… 11:00 ～12:00<br>出生前の胎児を可能な限り評価し、妊娠・分娩・新生児管理を適切に行い、新生児予後の改善に寄与することを目的とします。治療には周産期専門医・臨床遺伝専門医があたり、患者の不安を取り除き周産期管理致します。ご紹介頂ける症例としましては、母体合併症、日常診療で胎児形態異常（胎児奇形、染色体異常など）が疑われる場合、重症な胎児発育不全など。また、遺伝性疾患が疑われる場合や、遺伝相談も可能です。 |
| | 内視鏡（腹腔鏡･子宮鏡）外来 | 月曜・木曜 …… 14:00 ～ 15:00<br>良性疾患を対象に、腹腔鏡又は子宮鏡手術を希望される患者さんに対して日本産婦人科内視鏡学会認定医が対応致します。子宮鏡のみの依頼も可能です。 |
| 眼科 | 医師指定 | 前野教授 水曜 …… 13:00 ～ 15:00 |
| 耳鼻咽喉科 | 一般外来 | 月・水・金曜 …… 9:00 ～ 10:00 |
| 麻酔科 | 一般外来 | 火・金曜 …… 13:00 ～ 13:30 |
| 外科 | 一般外来 | 月曜～金曜 …… 9:00 ～ 11:00（※乳腺外科は除く） |
| | 医師指定 | 加藤教授 水曜 …… 13:00 ～ 14:00 |
| 消化器外科 | 一般外来 | 月・水・木・金曜 …… 9:00 ～ 11:00　火曜 …… 13:00 ～14:00 |
| 脳神経外科 | 一般外来 | 月・水・木・金曜 …… 9:00 ～ 11:00 |

※小児科･メンタルヘルスクリニックについても現在、導入の準備を進めております。